

村上徹、多鹿友喜
上野仁之、依藤宏
Deanna Clause 小材
(群馬大・医)

今日の医学・医療での英語の重要性は疑いもない。しかし、医学生にそれを実感させることは存外容易でない。本学では2年前・後期に医学英語の授業があるが、後期には解剖学の授業と重なるため英語の授業へのモチベーションは阻害されがちだった。そこで2012年度後期より医学英語の授業で解剖学英語を取り入れた。解剖学教育用人体塑像模型 *Anatomy in Clay®* を用い、解剖実習と並行して人体を粘土で造りながら解剖学用語を英語で学んだ。2013年度は前期に解剖学用語の成り立ちを学び、後期は前年同様に塑像模型を用いた。学生へのアンケート調査では好意的な評価や意見が得られた。今後は学業成績への影響を調査していきたい



2012年度 前期の医学英語は従来通りの授業が行われ、後期より解剖学英語がとりいれられた。8月から *Anatomy in Clay®* の購入準備を進め、9月発注、10月納品（表1、図2）。後期の授業は9月中旬より始められ、解剖学英語の基礎がまず教授された（図1B）。11月末から *Anatomy in Clay®* が使用された。このとき解剖実習では下肢の解剖が進められていた（『解剖学実習の手ひき』に準拠）。

2013年度 年度初から医学英語の授業の授業に解剖学英語が取り入れられた。前期に解剖学英語の成り立ちが教授された。後期の解剖実習は9月下旬から開始された（『グラント解剖学実習』準拠）。医学英語では10月の授業から *Anatomy in Clay®* が使われた（図1A）。主に運動器系を学ぶこととし、できるだけ四肢の解剖の復習になるよう時期を合わせた。解剖学の授業では、必修英単語のリストを作成して、ここから解剖学の試験に出題した。リスト作成にあたっては医学英語の授業で扱われる解剖学用語と大差がないようにした。

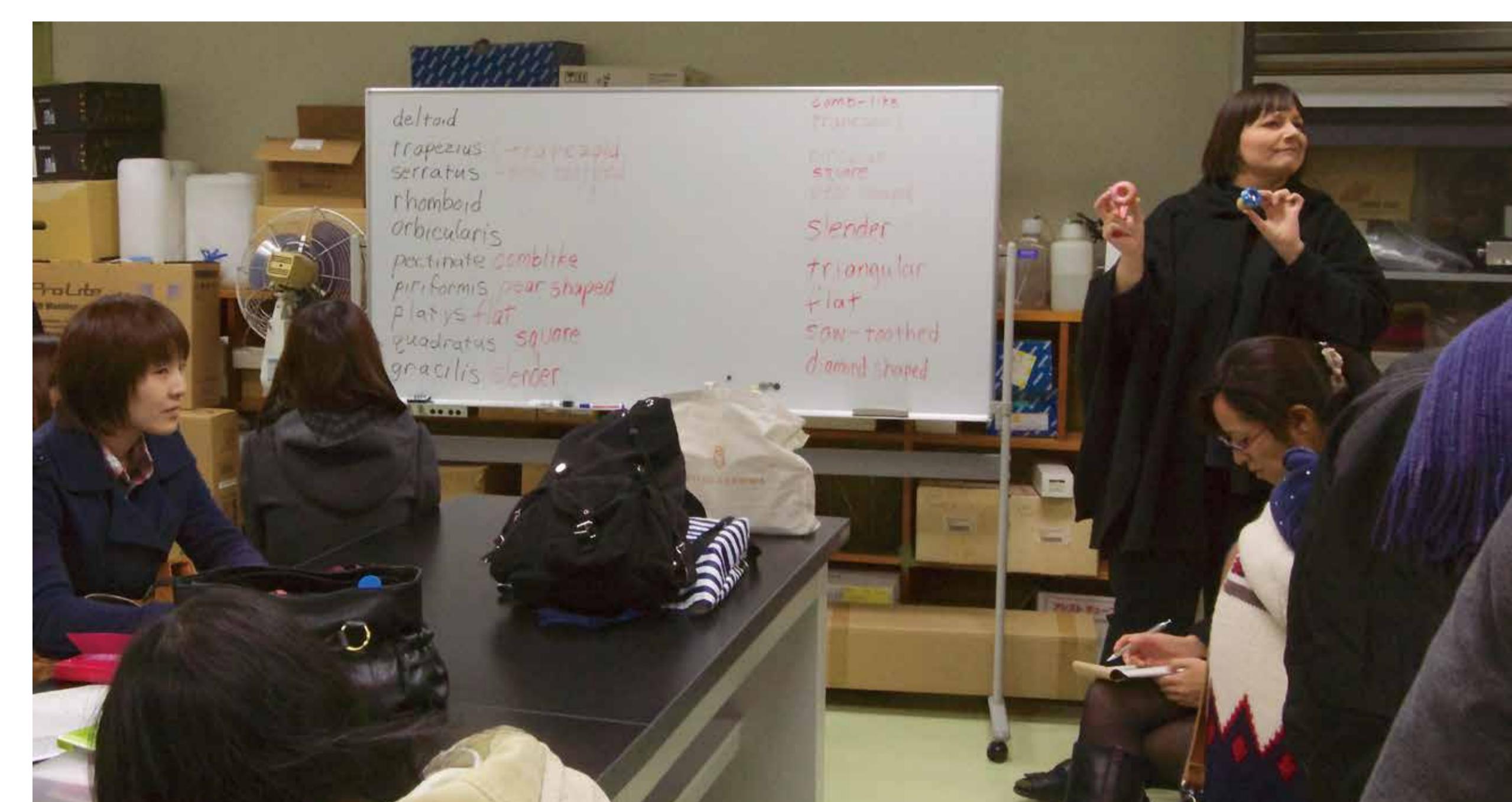


図1 A. *Anatomy in Clay®* を用いた医学英語の授業（上）。粘土で筋を作成し骨格模型に付け名称を彫込む。B. 解剖学英語の基礎（下）。単語を要素に分けて学び応用力を養う。

品名	内容	数量
Maniken® Student 2 Model Complete with Basic Tool Set, Base, & Clay	骨格モデルとスタンド	17
Conversion Kit (2ea boom assemblies & 1 Base)	左右に分割して使用するための追加のスタンド	17
Basic Tool Set	粘土細工用ヘラ、ローラーなど	17
EZ-Squeeze Clay Handle with Adapter and Klay Extruder	粘土をヒモ状に押し出す器具	4
Starla on Maniken® Teachers Guide Curriculum in Sleeve with Atlas CD	教員用ガイドブック	1
Maniken® Student Body Systems Series (2 DVD Set)	教員用ビデオ	1

表1 *Anatomy in Clay®* の本学授業用の一式。骨格モデル *Maniken®*、粘土、ツール、資料からなる。開発元の米国 Zahourek Systems Inc. (anatomyinclay.com) から直接購入した（総計約1万ドル）



図2 *Anatomy in Clay®* の骨格モデル *Maniken®* を左右に分割して使用する。粘土やツール類と合わせてキャビネットに収納している。ツールボックス、粘土板は国内から調達

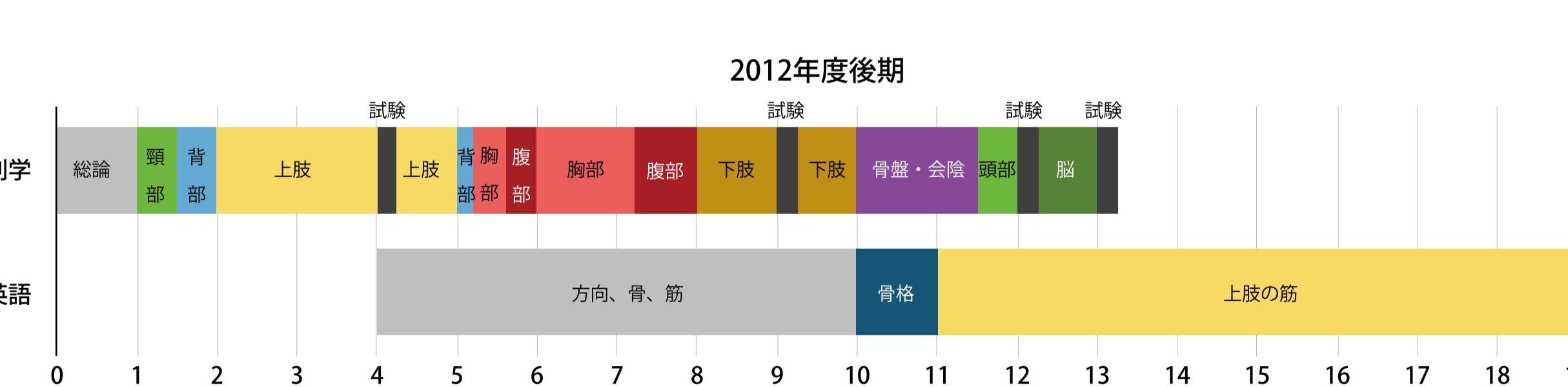


図3 2012年度後期～2013年度の医学英語および解剖学の授業スケジュール。2013年度は、*Anatomy in Clay®* を用いた医学英語の授業を解剖実習にできるだけ合わせた。

アンケート調査 毎年度の解剖学の授業末に履修生に授業に関するアンケート調査を実施している。2012年度より解剖学の授業における英語の扱い、および医学英語の授業の如何についての設問を新設した（図3）。対照のため、解剖学の授業に関する設問のうち、実地試験に関する評価を並べて示す。

解剖学の授業において英語の習得を求めるごとにに関して、履修生からはおよそ理解を得られていることが伺える。2012年度後期の *Anatomy in Clay®* についての平均評価は中間で（3ポイントとの有意差なし）、解剖学に関する設問と比較して低評価だった。これは準備不足が原因だったと考えられる。十分な準備のできた2013年度には好評価が得られた。

今後の課題 解剖学の成績への *Anatomy in Clay®* の効果を調査したい。医学英語の授業は2つのクラスに分割して実施されているので、これを利用することを考えている。

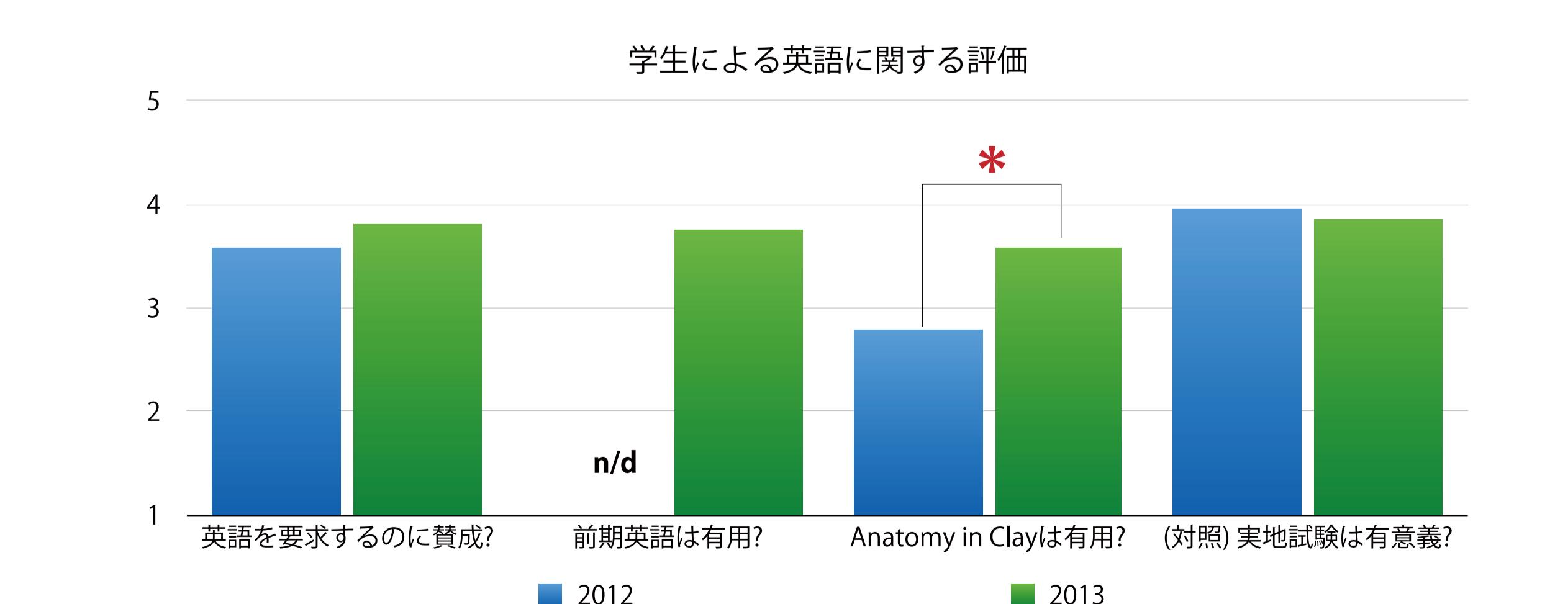


図4 2012～13年度の学生へのアンケート結果。1～5のスケールで設問への同意の程度を訊ねた：解剖学の授業で英語の習得を要求するのに賛成か、前期の医学英語は解剖学習得に有用か（2013のみ）、後期の*Anatomy in Clay®* は解剖学習得に有用か、実地試験は有意義か（対照）。＊は危険率1%で前年比有意。アンケート回収率：100%（2012）、98%（2013）